

# 沖縄の負担軽減と言いながら**60カ所**もの米軍ヘリパッド 高江ヘリパッド建設強行やめよ



日本共産党の赤嶺政賢議員は2月25日の衆院予算委員会分科会で、防衛省が、沖縄県東村高江地区の米軍北部訓練場内でヘリパッド（ヘリコプター離着陸帯）の建設工事を強行していることを批判。高江集落へのヘリパッドが完成すれば、沖縄には60ものヘリパッドが存在することになるなどとして、「本当に必要なのか政府は検証を」「唯々諾々と従って膨大な数のヘリ着陸帯に。やめるべきだ」と建設の中止を強く求めました。

以下、質問の要旨を紹介します。

日本共産党

**キャンプ・ハンセンだけで39の着陸帯。つくりたい放題（赤嶺）**  
**ヘリパッドの数や詳細把握してない。金武町に連絡とる（防衛副大臣）**

県中部の米軍キャンプ・ハンセンにヘリパッドが幾つあるか問われた小川勝也防衛副大臣は「数や詳細は把握していない」と答弁。赤嶺議員は金武町の調査では39カ所になることをあげ、「つくりたい放題つくった数」「沖縄の負担軽減をいうなら、高江集落へのヘリパッド移設はやめるべき」と強調しました。

**赤嶺議員** キャンプ・ハンセンにヘリパッドは幾つあるか。

**小川副大臣** その数及び位置の詳細については、私どもで把握していません。

**赤嶺議員**（航空写真などから金武町が）数えたら、キャンプ・ハンセン内に三十九カ所。多過ぎるなどという実感を持たないか。：防衛省で責任を持って、何か所あるか、金武町で数えて、米側に問い合わせを。

**小川副大臣** 金武町に連絡をとらせていただきたい。（米国へは）情報など分析して検討する。

**赤嶺議員** 三十九カ所、これはつくりたい放題つくらなかつたら出てこない数だ。沖縄の負担軽減というのなら、（北部訓練場の無条件返還で、高江への）ヘリパッド移設はやめるべきだ。

**「沖縄の負担軽減」なら、建設の検証は当然だ（赤嶺）**  
**日本から提案・相談する場面が来ること否定しない（防衛副大臣）**

高江集落に北部訓練場から6つのヘリパッドが移設されると、すでにあるヘリパッドとあわせて21カ所。周囲を取り囲まれ、上空をヘリが縦横無尽に飛び交うこととなります。赤嶺議員は150人の住民の生活と安全が脅かされると厳しく指摘し、「アメリカは新たに地球規模の米軍再編を検討しており、政府は必要か検証するのが当然だ」と建設の中止を求めました。小川副大臣は「提案、相談することは否定はしない」と答えました。

アメリカ側にも見せることがすべてにおいての負担軽減に関係してくる。

**赤嶺議員**（米国いいなりでなく）日本が変化に機敏に対応し、必要かどうか検証するのは当然。負担の軽減に繋がるならなおさら。

**小川副大臣** 米軍がどのヘリパッドをどういう目的で使っているかは承知していない。日本から提案、相談させていただくという場面が来ることは否定しない。

**赤嶺議員** 米側は新たな地球規模の米軍

再編を検討中で、在沖米軍は変化する。現在十五カ所ある（北部訓練地域）にさらに六カ所。本当に必要なのか。

**小川副大臣** 履行していくということ

**赤嶺議員は、防衛省が警備員などを動員して住民を排除して工事を強行していることを批判。「米軍が必要だといったらそのまま従って膨大なヘリパッドを県内につくるようなことは、やめるべきだ」と強調しました。**